

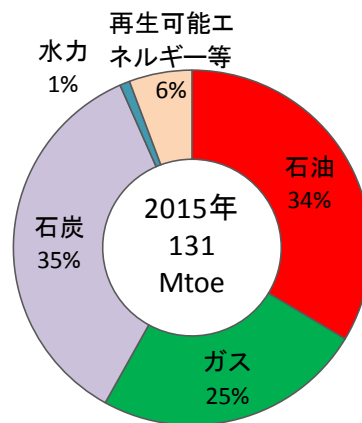
1-16 オーストラリア

1. サマリー

1. エネルギー事情

- (1) 一次エネルギー供給量 (2015年) : 131 百万 toe (日本の 0.30 倍)
- (2) 一人当たりの一次エネルギー供給量 (2015年) : 5.46toe(日本の 1.59 倍)
- (3) エネルギー自給率 (2015年) : 290%
- (4) エネルギー起源 CO₂ 排出量 (2014年) : 373.8 百万 CO₂ 換算 ton (日本の 31.4%)
- (5) 一人当たりエネルギー起源 CO₂ 排出量 (2014年) : 15.81 CO₂ 換算 ton(日本の 169.1%)
- (6) エネルギー源別可採年数 (2015年末) : 原油 28.3 年、天然ガス 51.8 年、石炭 158 年

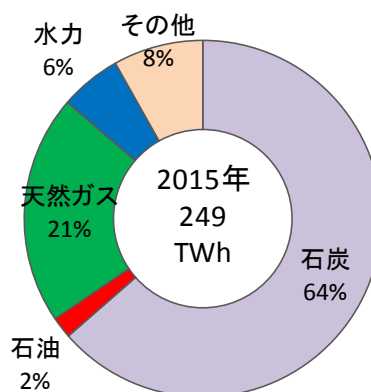
一次エネルギー供給構成 (2015年)



Country: Australia

(出所) World Energy Balances 2016, IEA

発電電力量構成 (2015年)



Country: Australia

(出所) World Energy Balances 2016, IEA

2. エネルギー政策のポイント

(1) エネルギー政策担当機関

- 豪州のエネルギー・資源政策の基本方針は、国家の重要方針を協議する Council of Australian Governments (COAG、構成員は連邦首相及び各州首相) と COAG の下にある Standing Council on Energy and Resources (SCER、構成員は連邦及び各州と NZ の関係大臣) により策定される。具体的な政策 (鉱物・エネルギー産業や資源に係る政策立案、法制度の管理等) については、2015年9月の新内閣発足以降、Department of Resources, Energy and Tourism (DRET) から改編された Department of Resources, Energy and Northern Australia が担当している。大臣は Matthew Canavan (2016年12月時点)。

(2) 基本政策

- 政府は、2015年4月、エネルギー部門のロードマップ「エネルギー白書2015(Energy White Paper 2015)」を発表した。「エネルギー白書2015」では、①市場競争を積極的に導入することで、電力やガス価格を引き下げ、②エネルギー生産効率を高めるとともに、③エネルギー資源への投資を拡大して日本やアジア地域への輸出を増大することなどが目標に掲げられている。

(3) 最近の動向

- 2015年9月の与党自由党の党首選挙で、Malcolm Turnbull氏が勝利し新首相に就任。
- 2014年7月、連邦議会の上院で炭素税廃止法案が可決。これに代わる政策措置として、25.5億豪ドル規模の補助金を中心とする「直接行動計画 (Direct Action Plan)」が2014年10月に可決された。同制度は、排出量削減基金 (Emissions Reduction Fund) を立ち上げ、公募した企業の削減プロジェクトに資金を提供するというもの。
- 2016年4月、オーストラリアはパリ協定に署名、11月に批准した。

3. 日本とエネルギー分野における関係

- 2015年における日本の豪州からの原油輸入量は約132.2万kl(原油全輸入量の約0.7%)、LNG輸入量は約1,862万ton(LNG全輸入量の約21.9%)であった。一方、豪州にとっても日本は最大のLNG輸出相手国となっている。
- 産業レベルでは、日本のエネルギー関連企業・商社等が多数、豪州での上流資源開発に積極的に参入している。
- 2016年9月、東京ガスは、Western Australia州で推進しているGorgon LNGプロジェクト(Chevron、オーストラリア法人2社が中心)で生産された液化天然ガスを東京ガス扇島LNG基地(神奈川県横浜市)に初受入した。

2. 主要エネルギー指標

COUNTRY: Australia

(2015年)

(1) 一次エネルギー供給量		131 Mtoe
(2) 一人当たりの一次エネルギー供給		5.46 toe/人
(3) GDP当たりの一次エネルギー供給		0.09 toe/千ドル
(4) エネルギー自給率		290 %
(5) エネルギー起源CO ₂ 排出量 (2014年)		373.8 百万CO ₂ 換算ton
(6) 一人当たりエネルギー起源CO ₂ 排出量 (2014年)		15.81 CO ₂ 換算ton/人
(7) エネルギー源別構成率	石炭	35 %
	石油	34 %
	天然ガス	25 %
	原子力	0 %
	水力	1 %
	再生可能エネルギー等	6 %
(8) エネルギーの輸入依存度		-190 %
(9) 石油の輸入依存度		58 %
(10) 輸入原油の中東依存度		18.3 %
(11) 原油の輸入先	第1位	マレーシア
	第2位	UAE
	第3位	インドネシア

(出所) (1)～(4)および(7)～(9) : World Energy Balances 2016, IEA

(5)～(6) : CO₂ Emissions from Fuel Combustion 2016, IEA

(10)～(11) : Oil Information 2016, IEA